

教員養成に対する理念及び認定課程設置の趣旨等

大学の設置理念

大学の教育理念は、21世紀における知的基盤社会を支える豊かな教養と専門性を兼ね備えた市民を育成するための教育を追求することである。教養教育を人間形成の中心的な役割を担う教育の根幹と位置付け、すべての学生が豊かな教養を体系的に身に付けることができる教育を基準として、教育課程ごとの目的に沿った専門教育の実質化を図り、カリキュラム改革や教育実践の充実を通して教育の質を高め、入学前から就職後まで充実した教育支援プログラムを提供することを目指している。

大学の教員養成に対する理念

教員に求められる「教職に対する情熱や使命感」、「子ども理解・教材作成・学習指導などの専門的力量」などの基礎的資質・能力の他、「対人関係調整能力やコミュニケーション能力」、「国際感覚」などの社会性、その上に豊かな人間性を備えた教員を養成することが佐賀大学の教員養成の理念である。

●教育学部学校教育課程

①教員養成に対する理念・構想

教育学部学校教育課程は、幼児・児童・生徒の心身の発達を長期的な視点から見据えながら、現代社会の変化に伴うさまざまな教育課題に応えることができる学校教員の養成を目指す。特に、幼小中の学校種を連携する教育や小学校高学年の教科担任制に対応させるため、学校教育課程に「幼小連携教育コース」と「小中連携教育コース」を置き、幼児期から児童期へ、児童期から青年期へと成長していく子どもたちの発達を一貫的で連続性のある学びとして捉えることができる教員の育成を図る。この育成をすることによって、地域が抱える、「確かな学力」の育成、小中一貫教育、いじめ・不登校などの生徒指導、特別支援教育、英語教育改革、ICT利活用教育などの教育課題に対応した教員の養成を目指す。本課程が地域の自治体（佐賀県）と手を携えて教員養成を行い、地域の教育の向上に寄与することは、地方国立大学における教員養成課程の果たすべき役割のひとつである。このように、本教育学部学校教育課程は、義務教育段階での教育に確実に責任を果たすことを明確に打ち出し、養成課程での教員の質の向上を図る。

②教職課程の設置趣旨

佐賀大学教育学部学校教育課程では、上で述べた目的のために、日本国憲法、英語、健康スポーツ、さらに情報処理の知識・技能を中心とした教養を身につけ、教科教育や支援教育等の現代の学校教育における課題を分析し、解決できる人材を育成する。この人材育成は、「佐賀大学学士力」の規定にある「基礎的な知識と技術」「課題発見・解決能力」「個人と社会の持続的発展を支える力」を基に達成されると考える。このように、教養および人文科学の基礎知識を基に激動する現代の学校教育の課題を発見し、分析および解決する能力とともに、教職に関する知識を修得して、優れた学校教育を実践できる教員の養成を行う。特に、今後の義務教育改革が予定されていることを意識して、幼小・小中連携を意識したカリキュラム編成をおこなっている。小中連携や小中一貫という変革にも対応できる教育者の養成を目的として、社会と文化について多面

的に学ぶ「教養教育科目」、小中連携教育を意識し、自身も英語コミュニケーション能力等の基礎的な技能を身につけるための「コース共通科目」、そして教育実習の準備を進めるための「教育実践フィールド演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、児童・生徒理解と教科内容を深める「専門教育科目」を組み入れている。

学校教育課程の一課程に2コース（幼小連携教育コースと小中連携教育コース）を置き、以下のようにそれぞれの2専攻において、専門課程に即した免許の取得を卒業要件とする。

幼小連携教育コース	幼小発達教育専攻
	特別支援教育専攻
小中連携教育コース	初等教育主免専攻
	中等教育主免専攻

幼小連携教育コースには、幼小発達教育専攻と特別支援教育専攻を設定し、子どもの生活・発達・学習について、心理、保育・教育、特別支援教育の視点から専門的知識や技能を学ぶことにより、発達の視点から子どもの育ち支援ができる教員を育成する。小学校教員免許取得が卒業要件となる。幼小発達教育専攻では、幼小連携教育の課題を学びの連続性の問題としてとらえ、発達の視点からより効果的な教育支援を行うことができる知識・技能を育成する。特別支援教育専攻では、支援が必要な障害の重度・重複化、多様化という現代の教育課題に対応しより効果的な教育支援を行うことができる知識・技能を育成する。

小中連携教育コースには、初等教育主免専攻と中等教育主免専攻を教科（国語、社会、数学、理科、体育、音楽、技術、家庭、英語）ごとに置く。小・中学校9年間の義務教育期間全体について体系的に把握し、児童生徒の心身の発達過程に基づきながら、各教科の内容と特徴についての知識理解を深めるとともに、一人ひとりの実態や特性を踏まえ、着実な学習理解や達成へと導く能力を習得する教育課程を編成し、実施する。さらに、初等教育と中等教育を一体的にとらえた特色ある教育課程を各専攻において編成し、実施する。初等教育主免専攻では、児童一人ひとりの確かな学力の獲得や、自他をともに大切にする伸びやかな心身の成長へと導くことのできる教育実践のための知識・技能を育成する。中等教育主免専攻では、小学校教育との接続という教育課題に対応し、生徒それぞれの着実な教科学習の積み重ねや学力の向上を実現できる教育実践のための知識・技能を育成する。

なお、取得可能とする予定の教員免許は以下のとおりである。

幼稚園教諭一種免許状

特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者、肢体不自由者、病弱者）

小学校教諭一種免許状

中学校教諭一種免許状

国語、社会、数学、理科、保健体育、音楽、技術、家庭、英語

高等学校教諭一種免許状

国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、書道、保健体育、家庭、英語

● 芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科

①教員養成に対する理念・構想

生徒たちを、豊かな美的感性と美術・工芸の技能をもった中学生・高校生になるよう導く教育者を養成すべく、美術・工芸の知識や技能はもとより、人文・社会・自然科学の広い分野にわたる教養と現代社会が直面するさまざまな問題に対する高い意識の両方を兼ね備えた人材を養成す

る。
芸術地域デザイン学部が有する多様な美術・工芸・デザイン等の幅広い分野に通暁する美術・工芸の教育者を養成するべく、多様な科目を用意する。また、実際に手をつかった技能養成に重点をおいたカリキュラムにより、実際にものを作ったり、描いたりすることのできる教員の養成を目指す。また、地域参加型、共同制作型の科目を教職に関わる科目に入れることで、高いコミュニケーション能力や協調性をもった美術・工芸の教員養成を目指す。

②課程の設置趣旨

豊かな美的感性と芸術に関わる知識、そして美術・工芸の技能を有し、地域の美術・工芸の発展に貢献する人材の導き手（＝教育者）を養成すべく、芸術地域デザイン学部に教育課程を設置する。

なお、取得可能とする予定の教員免許は以下のとおりである。

中学校教諭一種免許状

美術

高等学校教諭一種免許状

美術、工芸

念のもとに「教科の指導法」並びに「教科に関する科目」を設置して理論と実践力を備えた能力を養成する。

● 経済学部経営学科（高一種免（商業））

【理念】佐賀大学経済学部経営学科は、「経済学・経営学・法学を柱として社会科学上の知識と教養を授け、経済社会における問題を分析し解決できる人材を育成することを目的」としている。この人材育成は、佐賀大学学士力「基礎的な知識と技能」「課題発見・解決能力」「個人と社会の持続的発展を支える力」を基に達成される。このように、教養および社会科学の基礎知識を基に激動する現代の経済社会の課題を発見し、分析および解決する能力とともに、教職に関する知識を修得し優れた商業科教育を実践できる高等学校商業科教員養成を行う。

1年次は、基本経営学、基本簿記会計によって経営全般の知識を習得し、付随的に経済学および法学の知識等経済社会において生活する上での必要な基本知識の修得を通じて佐賀大学学士力「基礎的な知識と技能」を育成する。また、経営管理論、マーケティングマネジメント、企業論、社会情報論の履修によって、商業科教育に必要な経営管理、マーケティングの基礎理論、情報通信技術に関する基礎知識の修得が可能となる。さらに、ハラスメント講習、キャリア教育、環境教育、並びに、少人数クラスにおけるグループワークの実施を通じて、人権意識、就職や環境への意識、コミュニケーション能力を高める。その結果、佐賀大学学士力「基礎的な知識と技能」および「個人と社会の持続的発展を支える力」を育成する。

2年次は、原価計算論、管理会計論、経営組織論、経営戦略論、経営労務論、流通経済論による商業科教育に必要な会計・経営知識の修得、プログラミングによる情報リテラシーの修得、ビジネスコミュニケーション英語や国際交流実習による国際的感覚の涵養等を通じて佐賀大学学士力「基礎的な知識と技術」および「個人と社会の持続的発展を支える力」を育成する。

3、4年次は、財務会計論、ファイナンス論、経営情報論、ブランド戦略論によって会計および経営学分野の専門的内容を深め、流通産業論、経営史、県内会計職業人によるオムニバス講義（実践会計）によって

専門知識の応用力を養い、佐賀大学学士力「課題発見・解決能力」を育成する。さらに、演習、経済学部社会課題研究センターの「学生チャレンジ地域連携プロジェクト」によって、地域社会と連携しながらフィールドワークを実施し、佐賀大学学士力「課題発見・解決能力」および「個人と社会の持続的発展を支える力」を育成する。なお、経営学科では、学生のコミュニケーション能力、主体性および協調性の向上を図るため4年を通じてゼミを開講して、グループ学習および卒業論文の執筆、その報告等を実施する。

【設置趣旨】

佐賀大学経済学部経営学科は、経済社会における経営、会計、マーケティングおよび情報分野において課題を発見し、分析する能力等を有した人財育成を行う。これによって、商業高等学校において商業科教育を受ける次代を担う若者の育成で指導的役割を果たせる。上記の【理念】で示した各年次の履修計画に基づく学習の結果、学生は、商業高等学校における商業科教育に係る基礎および専門知識を修得し、商業高等学校教員としての教育力が育成される。商業科教育に係る基礎および専門知識を修得するとともに、生徒の人権を尊重し、生徒指導を円滑に行うために教職に係る知識および実習を修得し、商業高等学校において有為の人材を育成するのに優れた能力を有する教員の養成を行う。そのために、教育原理、教育思想史および教育の社会学的考察を通じて教育者としての素養、生徒の職業意識を高めるための職業指導についての実践的素養を身に付ける。また、商業系科目の教育についてその特徴を把握し、その方法について修得する。以上の教育の方法や生徒指導の学習を踏まえ、教職に関する教育の成果を高校での実習を通して実践する。

●理工学部理工学科

【教員養成に対する理念・構想】

(1) 数理サイエンスコース(中一種免(数学)・高一種免(数学))

数理サイエンスコースでは、数学の基礎的内容及び専門的な数学の理解と教育能力、子供の指導に関わる専門的力量、豊かな教養、コミュニケーション能力を含む対人関係処理能力の向上を図り、さらに人間性と社会性を兼ね備えるとともに、実践的指導力、教育に対する情熱と使命感と併せ持つ数学教員を養成することを教員養成理念とする。

(2) 知能情報システム工学コースおよび情報ネットワーク工学コース(高一種免(情報))

知能情報システム工学コースおよび情報ネットワーク工学コースでは、佐賀大学の教員養成理念に基づき、使命感、責任感、教育に必要な専門知識、幅広い豊かな教養、コミュニケーション能力の向上をはかり、知性、社会性、人間性を兼備し、これらを基盤とした実践的指導力と教育に対する情熱を有し、情報の基礎的内容及び情報工学および情報科学分野を修得した教員を育成することを教員養成の理念とする。

(3) 生命化学コース、応用化学コースおよび物理学コース(中一種免(理科)・高一種免(理科))

生命化学コース、応用化学コースおよび物理学コースでは、理科全般の基礎的内容及び専門的な物理の理解と教育能力、幅広い豊かな教養、コミュニケーション能力の向上をはかり、知性、社会性、人間性を兼備し、これらを基盤とした実践的指導力を有する理科教員を育成することを教員養成理念とする。

(4) 機械エネルギー工学コース、メカニカルデザインコース、電気エネルギー工学コース、電子デバイス工学コース、都市基盤工学コースおよび建築環境デザインコース(高一種免(工業))

これらのコースでは、佐賀大学の教員養成の理念に基づき、使命感、責任感、倫理観、教育に必要な専門的知識と実践能力を備えた工業教員の養成を行う。また、本学科は理工系の総合学科としての教育体制を敷くことによって、情報工学、工業化学、機械工学、電気工学、電子工学、土木工学、建築学などの工業の各分野をバランスよく修得した教員を育成することを教員養成の理念とする。

【設置趣旨】

(1) 中一種免(数学)・高一種免(数学)

数理サイエンスコースで開設する授業科目を中心に線形代数学、微分積分学及び集合論などの数学の基礎を学んだ後、

- ・ 代数学分野における群・環・体の理論
- ・ 幾何学分野における位相、曲線・曲面の理論及び多様体論
- ・ 解析学分野におけるルベーグ積分、微分方程式、複素関数論及び確率・統計

を習得させることにより、数学教員としての専門性と素養をもつ人材を輩出することを目的として、教職課程を設置する。

(2) 中一種免(理科)・高一種免(理科)

生命化学コース、応用化学コースおよび物理学コースで開設する授業科目を中心に理科の基礎となる4つの領域(物理・化学・生物・地学)の各概論及び基礎実験、さらに発展的な内容を含む物理または化学を中心とした選択科目を設定し、それらを習得させることにより、理科教員としての高い専門性と素養をもつ人材を輩出することを目的として、教職課程を設置する。

(3) 高一種免(情報)

知能情報システム工学コースおよび情報ネットワーク工学コースで開設する授業科目を中心に人工知能、画像情報処理、信号処理、データサイエンス、情報ネットワーク、ソフトウェア等の情報工学分野および情報科学分野の教育を行い、情報に関する専門的知識や技能を習得させることにより、情報教員としての高い専門性と素養をもつ人材を輩出することを目的として、教職課程を設置する。

(4) 高一種免（工業）

機械エネルギー工学コースで開設する授業科目を中心に流体、熱、海洋エネルギーなどの有効利用による地球環境負荷低減を目的として、各種現象の解明、関連機械・機器の開発、またエネルギー変換機器の高性能化などに関する教育ができる教員を輩出することを目的として、教職課程を設置する。

メカニカルデザインコースで開設する授業科目を中心に先端的なモノづくりにおける高い信頼性確保を目的として、設計及び加工技術の開発、材料の挙動や特性の解明、さらに知能機械分野ではセンシングシステムの開発、インターネットを用いたロボット群の制御などの最新技術に関連した教育ができる教員を輩出することを目的として、教職課程を設置する。

電気エネルギー工学コースで開設する授業科目を中心に電気エネルギーの発生、変換、利用などの基礎技術と、工業、医療、農業など様々な産業分野で電気エネルギー応用技術に関する教育ができる教員を輩出することを目的として、教職課程を設置する。

電子デバイス工学コースで開設する授業科目を中心に半導体などの電気電子材料、パワーデバイス、光デバイス、太陽電池、マイクロ波デバイスなど各種電子デバイス技術、それらを組み合わせた電子回路技術や無線伝送技術、その制御のための情報処理技術に関する教育ができる教員を輩出することを目的として、教職課程を設置する。

都市基盤工学コースで開設する授業科目を中心に少子高齢化と長期人口減少社会にあって気候変動等による災害外力の増大やインフラの老朽化等の課題に適応し、安全・安心や環境に配慮した持続可能な地域創生につながる都市基盤の整備・維持管理に関する教育ができる教員を輩出することを目的として、教職課程を設置する。

建築環境デザインコースで開設する授業科目を中心に都市空間の改善、歴史的環境や自然環境の再生、気候変動に対する環境保全・防災といった問題に対して、建築デザイン・環境デザイン・環境工学などの観点から持続可能な地域再生につながる建築都市空間の計画設計に関する教育ができる教員を輩出することを目的として、教職課程を設置する。

●農学部生物資源科学科

【教員養成に対する理念・構想】

(1) 食資源環境科学コース（中一種免（理科）・高一種免（理科））

食資源環境科学コースでは、佐賀大学の教員養成理念に基づき、専門的力量、幅広い豊かな教養、対人関係処理能力、コミュニケーション能力の向上をはかり、知性、社会性、人間性を兼備し、これらを基盤とした実践的指導力と教育に対する情熱を有し、環境保全、エネルギーに関する先端技術の開発と利用の推進、植物工場やコンピュータ等のIT技術、また土壌や環境水の分析化学等の学問分野を修得した教員を養成することを教員養成の理念とする。

(2) 生物科学コース（高一種免（農業））

生物科学コースでは、佐賀大学の教員養成理念に基づき、専門的力量、幅広い豊かな教養、対人関係処理能力、コミュニケーション能力の向上をはかり、知性、社会性、人間性を兼備し、これら

を基盤とした実践的指導力と教育に対する情熱を有し、生物資源の開発、保存、育種から、植物病原菌、ウイルス、昆虫類等農業生産に相関する多様な生物の機能解析、さらにフィールドを活用した実際の生産・加工技術等の学問分野を修得した教員を養成することを教員養成の理念とする。

【設置趣旨】

(1) 中一種免（理科）・高一種免（理科）

食資源環境科学コースで開設する授業科目を中心に自然環境および食料生産環境の保全と修復に関する科学的基礎知識や技術開発に対する専門知識を地盤環境学，環境水理学，応用力学，地球環境学等を通して，これらの実践的活用を含む物理学や地学の専門性，また選択科目の取得により化学や生物学の素養をもつ理科教員としての人材を輩出することを目的として教職課程を設置する。

(2) 高一種免（農業）

生物科学コースで開設する授業科目を中心に微生物から植物や動物など，農学分野で扱う生物の基礎的な知識・技術を，応用動物昆虫学，栽培学汎論，畜産学等を通して体系的に修得することにより，農業教員としての専門性と素養をもつ人材を輩出することを目的として，教職課程を設置する。

(1) 大学・学科の設置理念

①大学

大学の教育理念は、21世紀における知的基盤社会を支える豊かな教養と専門性を兼ね備えた市民を育成するための教育を追求することである。教養教育を人間形成の中心的な役割を担う教育の根幹と位置付け、すべての学生が豊かな教養を体系的に身に付けることができる教育を基準として、教育課程ごとの目的に沿った専門教育の実質化を図り、カリキュラム改革や教育実践の充実を通して教育の質を高め、入学前から就職後まで充実した教育支援プログラムを提供することを目指している。

②学校教育学研究科教育実践探究専攻（教職大学院）

佐賀の地域における学校教育の質的な水準の向上に、直接的に大きく貢献することを使命とする教職大学院を設置している。そこでは、佐賀の地域の学校教育の課題を解明し、学校教育の改革に向けて、教員が常に学び続け、変革の主体として成長し、学校変革の実現が期待できるように、高度な教員養成教育を行うカリキュラムを編成している。

また、大学も学校変革のために、教育委員会及び学校と協働し、学問的な資源や教育実践の高度化に示唆を与える具体的な情報や知見を提供できるようにしたい。さらには、大学における学校教育を対象とする研究にも望ましい効果を得たい。現実の学校教育の課題に、実践的・研究的な資源を求めることができ、新たな研究の内容や方法を見出す可能性が得られるようにしたい。互いに連携し、共同するからこそ、それぞれが単独では可能にならないパフォーマンスを発揮するように、それぞれのポテンシャルを顕在化させたいのである。ここに、新たな教員養成の可能性を見出したい。

したがって、これまでのような役割分担、すなわち教員養成は大学、採用と研修は教育委員会ということの限界を超えたいのである。教員の養成から採用、研修のどの段階においても、長期的な視野で大学と教育委員会・学校とが緊密に連携し、協働しなければならないのである。

すなわち、「学び続ける教師」のための教員の生涯学習支援システムを、大学と教育委員会が協働して構築をしていくべきである。教員養成段階においては、大学が主となる担い手であるが、一部の講義や教育実習において教育委員会と一体になって、その充実を図る。教員採用については、すぐれた教師の資質とその測定について、教育委員会とともに大学が共同で検討を進めることによっても、その改善を図る契機を得るようにしたい。

③地域デザイン研究科地域デザイン専攻

地方創生の取り組みが急速に展開している状況の中で、国及び県の地方創生と産業界の再生に貢献できる組織の設置と新しい視点を持った高度な教育を受けた人材の養成が早急に求められている。本研究科は、芸術、フィールドデザインそして経済・経営の三方向からのアプローチにより、地域創生をリードできる高度な知識をもつ職業人の養成を教育研究上の目的とする。

・芸術デザインコース

芸術に関する高度な専門知識と表現技能を修得し、それらを国際的に通用するレベルに発展させるとともに、マネジメント思考を身に付けることにより、幅広い視点から地域の文化芸術・産業の課題を見出し、芸術を通してその課題の解決ができる能力を持った人材を養成する。

・地域マネジメントコース

経済・経営の高度な専門的知識の獲得によるマネジメントの思考とグローバル経済における市場の展開を理解し分析できる能力の修得に加え、芸術の表現の理解及びフィールドデザインの思考を身につけることにより、幅広い視点から地域経済と文化の課題の解決と国際的展開ができる能力を持つ人材（ブリッジ・パーソン）を養成する。

（２）教員養成に対する理念・構想

①大学

教員に求められる「教職に対する情熱や使命感」、「子ども理解・教材作成・学習指導などの専門的力」などの基礎的資質・能力の他、「対人関係調整能力やコミュニケーション能力」、「国際感覚」などの社会性、その上に豊かな人間性を備えた教員を養成することが佐賀大学の教員養成の理念である。

②学校教育学研究科教育実践探究専攻（教職大学院）

本学教職大学院の理念・目的は「佐賀の地域に必要とされ、学校教育現場の諸課題に対応し、課題解決できるような『理論と実践の往還』による高度な専門性と実践的指導力を備えた教員の養成」である。このような人材育成の目的に応じて、教職大学院のカリキュラムを編成している。理論と実践の往還を原理とするカリキュラムであり、そのシーケンスは、課題の探究と解決による学校改革を志向したものとなっている。すなわち、入学時に目標設定確認科目において学校課題を明らかにし、その探究と解決のために理論的な科目を履修する。また、教育実習において新たな教育実践の試行を行い、その結果を目標達成確認科目において自己評価するとともに、公開の成果発表会を行うようにしている。その後、それぞれが所属学校においてリーダーシップを発揮して、学校改革の試みを本格化するようになっている。

一方、カリキュラムのスコープには、理論的な授業科目と教育実習科目とを結ぶように、具体的な教育実践を対象に、開発と省察を行う構造を与えている。すなわち、理論から実践を問い直し、それと同時に実践から理論を問い直すようにしているのである。こうして、次のような教員を養成することを目指す。

ア 学校変革を担うことができる教員の養成（高度な実践力を形成した教員）

教職経験を有する現職教員等を対象とする場合は、地域の課題に応じて学校改革を担うことができるリーダー教員の養成を行う。そのため、学校改革のプランを作成、実行するように研究計画を立案させ、その一部を学校現場において研究的な教育実習として試行的に実践し、実践報告論文を作成して自己評価する。そうすることによって、学校の教育課題について理論的に考察し、課題を明確にして改革に向けた実践を開発できる教員としての資質を向上させていく。

学校教育の課題は3つあり、その第1である学力問題では、学力育成の課題について理解を深め、変革の時代における学力育成を目指して、教育課程の編成、授業実践の開発のための基礎的能力を形成し、新たな教育課程の編成と授業実践を試み、その評価を実行できる教員を養成することが求められる。第2の課題、いじめ、不登校、発達障害等の特別な教育ニーズのある児童等への対応については、それらの児童等に対応する力の基礎を身に付け、さらに、すべての児童等が安心して充実した学校生活を送ることができるようになるための、学校環境を整備できる教員の養成を目指すこととする。第3の学校経営に関しては、今日的な学校について、その基本的構造を問い直し、学校と地域との連携についての理解を深め、新たな学校づくりを始めることが可能な、経営的なリーダー教員を育成すべき人材とする。

イ 学校課題を明確に把握できるフレッシュマン教員の養成

学部から進学してきた学生であるストレートマスターは、教職経験もなく、すぐに学校改革の担い手となることは難しい。そこで、将来において学校変革の担い手となることができるように、教育実践のなかで学校教育の課題を明確に把握することができるフレッシュマン教員として養成する。そのため、学校課題の探究をするように実践研究の計画を立案させ、その一部を学校現場において研究的な教育実習として実行するように指導し、将来は学校改革を担うことができる基盤を育成することが教育目標となる。

すなわち、入学時に目標設定確認科目において研究課題を明らかにし、その探究のために理論的な科目を履修する。また、教育実習において、自己の課題に応じた学校において、課題探究のための教育実践を行い、その結果を目標達成確認科目において自己評価するとともに、公開の成果発表会を行うようにしている。その後、教職についた後、より本格的に学校課題の探究を継続するようなカリキュラムとなっている。

ウ 多様な経験を有する社会人から人材を得ること

前項までに述べた学校教育の改革を担うリーダー教員、フレッシュマン教員以外にも、多様な教員の養成にも携わりたい。その理由としては、先述の学校教育の3つの課題に立ち向かうには、多様な人材の学校教育への参入も必要になるからである。多様な経験と知識を有する教員が協働するならば、これまでの教育実践の常識を積極的に疑うこと、これまでにない発想を持ち込むことなどの可能性が得られる。

③地域デザイン研究科地域デザイン専攻

- ・芸術デザインコース（中専免（美術）、高専免（美術）、高専免（工芸））

佐賀大学の教員養成理念に基づき、専門的力量、幅広い豊かな教養、対人関係処理能力、コミュニケーション能力の向上をはかり、知性、美的感性、専門的技能、社会性、人間性を兼備し、これらを基盤とした実践的指導力と教育に対する情熱を有する教員を育成することを教員養成理念とする。

- ・地域マネジメントコース（高専免（商業））

佐賀大学の教員養成理念に基づき、専門的力量、幅広い豊かな教養、対人関係処理能力、コミュニケーション能力の向上をはかり、知性、社会性、人間性を兼備し、これらを基盤とした実践的指導力と教育に対する情熱を有する教員を育成することを教員養成理念とする。

（3）認定を受けようとする課程の設置趣旨

①学校教育学研究科教育実践探究専攻（教職大学院）

教職大学院では、授業実践探究コース、子ども支援探究コース、及び教育経営探究コースの3つを設けている。いずれのコースにおいても、今日的な学校教育の一般的な課題だけでなく、佐賀県の学校教育の課題に応じて、それぞれのコースの特色を生かしながら、以下の専修免許を取得できるようにしたい。

免許状の種類、免許教科

- ・幼稚園教諭専修免許状
- ・小学校教諭専修免許状
- ・中学校教諭専修免許状

（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語）

- ・高等学校教諭専修免許状

(国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 家庭, 情報, 農業, 工業, 商業, 英語)

- ・養護教諭専修免許状

- ・特別支援学校教諭専修免許状

佐賀大学においては, これまでの実績及び課題をふまえて, 独自の改革を進めている。特に, 「佐賀の地域に必要なとされる『佐賀の大学』を目指してCOC (Center of Community) 構想に重点を置き, 改革を推進」することを基本方針としている(佐賀大学「国立大学法人佐賀大学の取り組み」平成25年7月)。

佐賀大学の重要な機能の1つに, 教員養成がある。佐賀の地域に必要なとされる佐賀大学は, 佐賀の地域の学校教育の質的な水準の向上に大きく貢献するように, 教員養成を行うことが責務である。また, 地域からの期待も大きい。

学校教育の質的な向上は, ひとえに児童・生徒を指導する教員の力量による。また, 保護者や地域のサポートも必要不可欠であり, 教員にはそれらのサポートを引き出すことも要求されている。これらのような力量を有するすぐれた教員を養成し, 佐賀の地域に送り出すことが佐賀大学の教員養成には強く求められている。

このような地域社会の期待に応えることができ, 地域とともに歩む教員養成を目指している。特に, 地方の地域社会は疲弊し, 壊れかかっているようにも見受けられる。そのようなときに, 大学は何ができるのか, 教員養成は何ができるか, と自問すべきであろう。すると, 人材の育成は極めて重要であり, 地域の学校教育の質的向上に大学の教員養成はその使命を果たし, 大きく貢献するべきであろう。

このような理念を抱いて, 教職大学院を設置し, これまで以上に教員養成を充実させ, すぐれた教師になることができる人材を養成したい。教員免許が単なる免許ではなく, 実質的に子どもたちを指導しモデルとなることができる教員を養成する。そうすることによって, 子どもたちの未来に希望を見出せるようになりたいのである。

②地域デザイン研究科地域デザイン専攻

- ・芸術デザインコース(中専免(美術)、高専免(美術)、高専免(工芸))

本コースでは, 芸術の表現・理論, アートマネジメント・地域デザイン(フィールドデザイン), そしてそれらを支える経済と経営の理論を教育・研究することにより, デザイン思考とマネジメント思考の複合的な能力を身につけた「自立的に創造する専門家」として, 地域産業の発展, 地域の歴史的・文化的資源の再生・活用・振興, 地方の再生とイノベーションに貢献できる人材の養成を目的としている。本コースは教員養成を主たる目的とするものではないが, 本コースで養成する高度な芸術理論及び技能をもち, 豊かな芸術表現を通して日本の未来を構築するスピリットと方法論をもった人材は, 美術・工芸教育の分野においても, 渴望されている。その要請に応えるべく, 本教職課程を設置する。

- ・地域マネジメントコース(高専免(商業))

本コースでは, 経営学や会計学だけでなく, 経済学や企業法務などマネジメントに関わる科目を設置し高度な専門教育を行うと同時に, 地域デザイン専攻芸術デザインコースで開講されるアートマネジメント等の関連分野科目を履修可能とし, 経済と企業活動を多角的かつ総合的に把握し分析し, 地域の経済と文化および企業活動にかかわる諸問題に対応し, 国際的展開ができる能力を有する人材の養成を目的としている。本コースは教員養成を主たる目的とするものではないが, 商業科教育では, 特定の分野にとらわれず, 経済活動および企業経営に関する現実的問題を総合的に分析し対応する能力を有し, それを商業科教育に反映できる教員が求められている。このような要請に応えるために, 教職に必要な能力を有し, 高度な専門性を基盤として経済経営について幅広い知識と分析能力をもった教員を養成することが本教職課程の設置目的である。

●理工学研究科 理工学専攻

【教員養成に対する理念・構想】

(1) 数学コース（中専免（数学）・高専免（数学））

佐賀大学の教員養成の理念に基づき、数学コースにおいては、数学分野の教育に必要な専門的知識に加えて、幅広い豊かな教養、複合的な数学的課題に対応できる高度な専門的能力、といった能力の向上を図る。

具体的には、数学コースで開設する授業科目によって、

- ・代数学分野における代数幾何学，整数論及び暗号・符号理論
- ・幾何学分野における位相幾何学及び微分幾何学
- ・解析学分野における関数解析学，偏微分方程式論及び確率解析学

などの数学分野に関する高度な専門的知識を修得させるとともに、各数学分野における先端的研究を通して、数学教員としての高い専門性と素養をもつ人材を輩出することを教員養成理念とする。

(2) 物理学コース（中専免（理科）・高専免（理科））

佐賀大学の教員養成の理念に基づき、物理学コースにおいては、理科の教育に必要な専門知識に加えて、幅広い豊かな教養、物理学分野の先端的研究課題に取り組める高度な専門知識と論理的思考能力の向上を図る。

具体的には物理学コースが開設する授業科目によって、

- ・素粒子・ハドロン・宇宙物理学分野における理論的および実験的研究
- ・物性物理学分野における実験的研究
- ・量子力学の基礎分野における実験的研究

などの各物理学分野における高度な専門的知識を修得させるとともに、各物理学分野の先端研究を通して、理科教員としての高い専門性と教養を持つ人材を輩出することを教員養成の理念とする。

(3) 機能材料化学コース（中専免（理科）・高専免（理科））

佐賀大学の教員養成の理念に基づき、機能材料化学コースにおいては、理科教育に関する専門的な知識，幅広い豊かな教養，化学分野の先端的研究課題に取り組める高度な専門知識と論理的思考能力の向上を図る。

具体的には、機能材料化学コースで開設する授業科目によって、

- ・無機材料化学や錯体化学といった無機化学分野
- ・反応有機化学や高分子化学といった有機化学分野
- ・材料物理化学や電極材料化学といった物理化学分野
- ・分離工学や地球環境化学といった化学工学および環境化学分野

などの各化学分野を広くカバーする科目を設定し、それらを修得させるとともに、各分野の先端研究を行うことで、理科教員としての高い専門性と教養を持つ人材を輩出することを教員養成理念とする。

(4) 知能情報工学コース（高専免（情報））

佐賀大学の教員養成の理念に基づき、知能情報工学コースにおいては、知能情報工学分野の教育に必要な専門的知識に加えて、幅広い豊かな教養，知能情報分野の先端

的研究課題に取り組める高度な専門知識と論理的思考能力の向上を図る。

具体的には、知能情報工学コースでは、情報システム、ソフトウェア企画・開発、人工知能、データサイエンス、サイバーフィジカルシステムなどの情報工学分野及び情報科学分野の教育を行い、情報に関する高い専門知識を身に着けるとともに、各情報工学分野における先端的研究を通して、情報教員としての高い専門性と素養をもつ人材を輩出することを教員養成理念とする。

(5) 電気電子工学コース（高専免（工業））

佐賀大学の教員養成の理念に基づき、電気電子工学コースにおいては、電気電子工学分野の教育に必要な専門的知識に加えて、幅広い豊かな教養、電気電子工学分野の先端的研究課題に取り組める高度な専門知識と論理的思考能力の向上を図る。

具体的には、電気電子工学コースで開設する授業科目によって、

- ・エレクトロニクス分野における光量子、半導体、シンクロトロン光応用技術
- ・環境エネルギー分野におけるパルスパワー、プロセスプラズマ、電力システム技術
- ・情報通信分野におけるワイヤレス通信システム、マイクロ波集積回路技術

などの電気電子工学の各分野に関する高度な専門知識を修得させ、さらに電気電子工学分野の先端研究を行わせることで、工業教員としての高い専門性と素養をもつ人材を輩出することを教員養成理念とする。

【設置趣旨】

(1) 中専免（数学）・高専免（数学） 数学コース

「数学」は自然科学の根幹を担う学問であり、技術者を目指す生徒はもちろんのこと、経済・社会活動、一般生活においても必要となる知識や論理的思考を学ぶ主要な教科である。しかしながら、昨今、理系離れが問題視されるように、全員が学ぶ教科であるにも関わらず、「数学」に対しての苦手意識を持つ生徒が多い。このような苦手意識の克服に必要な深い知識と技術を有し、数学を親しみやすく、その面白さや奥深さを伝えることで学ぶ必要性を理解させることができる教員を養成することは重要である。そのため、数学における先進的な知識と研究能力を身につけた教員を養成することを目的とし、教職課程を設置するものである。

(2)-1 中専免（理科）・高専免（理科） 物理学コース

現代の最先端の科学技術の基盤としての基礎科学の重要性は広く認識されており、中でも物理学は今後の科学技術の発展に必要不可欠な学問であり、技術立国を目指す我が国において理系人材育成の基盤となる重要な学問分野である。しかしながら、近年理科離れが指摘されているように、物理を含めた理科に対して苦手意識を有していたり、興味・関心が低い生徒が多い。これは科学技術が発達した結果による技術のブラックボックス化や基礎科学を理解することの高難易度化などが原因であると考えられ、物理学に精通し、我々の生活を支える科学技術と物理を含めた「理科」がどのように結びついているか、分かりやすく生徒に伝えて理解させることで、興味を引き出すことができる教員を養成することは重要である。そのため、高度な物理学の知見を身につけ、先端的な研究を経験した教員を養成することを目的とし、教職課程を設置するものである。

(2)-2 中専免（理科）・高専免（理科） 機能材料化学コース

現代社会において、セラミックスや高分子などの材料化学、材料の特性を評価・理解するために必要な物理化学や分析化学、さらには化学製品の製造プロセスに関する化学工学といった分野は、人類にとって喫緊の課題である環境・エネルギー問題の解決に資する新素材や新触媒の開発等に不可欠な学問分野である。中学校、高等学校の理科教育において、正しい自然科学の知識を身に付けさせるだけでなく、我々の生活に関わる材料や科学技術と理科の関係を理解させることに加えて、こうした分野に対する興味を引き出すことのできる能力をもった教員の養成は、理系人材の育成の観点からも極めて重要である。そのため、材料化学分野の知識を体系的に修得し、先端的研究に取り組んだ経験を有する教員を養成することを目的とし、教職課程を設置するものである。

(3)高専免（情報） 知能情報工学コース

現代の高度情報化社会において情報技術は一般生活に深く浸透しており、今後より一層あらゆるものの情報化が進むと予測されている。技術立国を目指す我が国において、「情報」あるいは「情報技術」を使いこなすことのできる人材の育成が重要であるのは言うまでもないが、技術者を目指す生徒のみならず全ての生徒に対する「情報教育」という観点において、情報の利用における危険性や仕組みを正しく理解させるためのリテラシー教育を適切に行える能力も重要である。そのためには、身近な「情報」技術を十分に理解し、教育に生かすことのできる教員の養成は重要である。また、日々進歩していく情報技術に追従できるだけの専門的素養をもつことも必要不可欠である。そのため、高度な知能情報工学の専門知識を身につけ、自ら情報分野の先端的研究に取り組んだ経験を有する教員を養成することを目的とし、教職課程を設置するものである。

(4)高専免（工業） 電気電子工学コース

電気電子工学は現在の社会を支えるとともに未来の豊かな社会を切り拓くために必要不可欠な学問である。工業教育において正しい専門知識を身に付けさせると同時に、身近なところで使われている電気電子工学の応用製品や応用技術と専門科目の関係性を結び付けて理解させることで、より深い興味を引き出すことが優秀な人材育成のためには重要であり、そのような高い能力をもった教員を養成することが必要である。また、技術革新が著しい電気電子工学分野において、新しい技術に追従できるだけの専門的素養をもつことも必要不可欠である。そのため、電気電子工学分野において高度な専門知識をもち、先端的な研究を経験した教員を養成することを目的とし、教職課程を設置するものである。

●農学研究科生物資源科学専攻

【教員養成に対する理念・構想】

(1)食資源環境科学コース（中専免（理科）・高専免（理科））

佐賀大学の教員養成理念に基づき、理科分野の教育に必要な専門的知識に加えて、幅広い豊かな教養、複合的な理科的課題に対応できる高度な専門的能力、といった能力の向上を図る。

具体的には、食資源環境科学コースで開設する授業科目によって、物理学・化学・地学・生物学を基礎とした環境地盤学、環境水理学、環境分析化学、応用力学、土壌物理

学，植物環境応答学，システム生態学等の環境科学関連分野の深い専門知識及び先端研究能力を身につけ，理科学及び環境科学に関する高い専門性と素養をもつ専門職業人としての教員の育成を本コースの教員養成理念とする。

(2) 生物科学コース（高専免（農業））

佐賀大学の教員養成理念に基づき，農業分野の教育に必要な専門的知識に加えて，幅広い豊かな教養，複合的な農業的課題に対応できる高度な専門的能力，といった能力の向上を図る。

具体的には，生物科学コースで開講する授業科目によって，生物資源の機能解析や品種開発，農作物や家畜の生産・加工，農地環境保全等に関連する農学分野の深い専門的知識及び先端研究能力を身につけ，農業に関わる高い専門性と素養をもつ専門職業人としての教員の育成を本コースの教員養成理念とする。

【設置趣旨】

(1) 中専免（理科）・高専免（理科） 食資源環境科学コース

環境科学は理科を基礎としている総合科学である。昨今悪化していく環境問題は地球レベルから地域レベルに至るまでの様々なスケールで生じている。その問題を解決するためには，水環境，土壌環境及び生物生態の間の関わり合いをよく理解し，物理学・化学・地学・生物学を基礎とした環境科学領域における深い専門知識と新しい先端技術への対応力を持つ人材の育成が必要である。また，学校現場においては関心の高い環境問題を正しく教えるためにも，理科学から環境科学に至るまでの広汎な知識と深い理解力が必要である。食資源環境科学コースでは，資源環境科学分野における多面的な知性と先進的な研究能力を兼ね備えた教員を養成することは，悪化する地球環境の修復ならびに保全，さらには豊かな生活環境の創造に寄与するものと考え，教職課程を設置するものである。

(2) 高専免（農業） 生物科学コース

昨今の農業においては，持続的な食料生産を確保するためには生物資源の活用と保全が最も重要な課題である。その解決に向けては，生物資源の機能解析や品種開発，農作物や家畜の生産等の農業関連分野に直面する諸問題を正確に理解し，それを解決する深い専門知識・能力及び高度な技術を備え持つ人材が必要不可欠である。また，近年食と農業に対する関心が高まる一方，農業後継者不足に悩まされている現場では，農業の重要性や面白さを教えらるる教員が望まれている。生物科学コースでは，農業関連分野における食用作物・野菜・果樹から，ウイルス，細菌，線虫及び家畜に至るまでの事象に対する広汎かつ先進的・高度な知識，技術及び課題解決力を身に付けた教員を養成することは，生徒に対する農業への関心を引き寄せる効果があり，将来の農業発展に寄与するものと考え，教職課程を設置するものである。

●先進健康科学研究科先進健康科学専攻

【教員養成に対する理念・構想】

(1) 健康機能分子科学コース（中専免（理科）・高専免（理科））

佐賀大学の教員養成理念に基づき，理科分野の教育に必要な健康科学及びその関連分

野である機能分子科学における専門的な力量，幅広い豊かな教養，複合的な理科的課題に対応できる高度な専門的能力の向上を図る。

具体的には，健康機能分子科学コースで開講する授業科目によって，中学校教諭一種免許（理科）また高等学校教諭一種免許（理科）取得者に対し，生命物質化学，植物機能分子学，分子創薬学等，健康科学分野の深い専門知識や先進技術を修得させ，理科にかかわる専門職業人として中学・高等学校教育において貢献できる教員を養成することを本コースの教員養成理念とする。

【設置趣旨】

(1) 中専免（理科）・高専免（理科） 健康機能分子科学コース

近年，健康科学分野を含む生命科学領域におけるゲノム解析やビッグデータ解析等，研究手法のパラダイムシフトが起こっている。これらの技術革新に対応し，健康長寿社会の構築や地域医療レベルの向上を図ることが，現代社会における喫緊の課題である。そこで，生命物質化学，植物機能分子学，分子創薬学等，健康科学分野における先進的な専門を理解し，先端技術を経験した人材を持続的に輩出することが不可欠である。理系人材育成の基盤となる中学校や高等学校の学習活動において，日々進化していく健康科学分野の知識を生徒にわかりやすく説明でき，また生徒に興味を引き出すことのできる教員の存在が重要である。そのために，健康機能分子科学コースにおいて，健康科学分野の幅広い知識と技術を体系的に修得した教員を養成することは，先の課題を解決することに寄与するものであることから，教職課程を設置するものである。